終わりの日

知っておきたいキリスト教のことば　(32)

みなさんは「終わりの日」というと、何を思い浮かべるでしょうか。パニック映画の中には、「人類滅亡の日」や「地球最後の日」を描くものがあります。(最後は大抵主人公が人々を救いますが)。そのせいか、「終わりの日」というと、とても暗く恐ろしいイメージを持ってしまいます。

また一部の宗教やキリスト教の教派の中には、「終わりの日」が近いということを強調して人々を不安に煽り、「正しい行い」をするように強いるグループもあります。

では聖書は「終わりの日」について、どのように言っているのでしょうか。ヨハネ福音書の中には、イエス様が「終わりの日」に言及している箇所があります。神さまのみ心は、イエス様を信じる人はすべて「終わりの日」に復活させられ、永遠の命を与えられることだというのです。

この言葉をきちんと読んだときに、わたしたちに与えられるものは恐怖や恐れではなく、喜びや希望に変わるのではないでしょうか。

神さまが「終わりの日」に世界の人々をさばく様子は、多くの画家によって描かれました。ルーベンスやアンジェリコ、ミケランジャロなどの作品をご覧になった方も多いでしょう。これらの作品に共通しているのは、救われる人と救われない人が対比して描かれているということです。マタイ 25 章 31 節～46 節などを読むと、そのようにも感じます。

しかしイエス様が、「わたしに与えてくださった人を一人も失わないで」と言われていることも、心に留めたいと思います。「終わりの日」はわたしたちにとって、すべてが滅んでしまう時ではなく、新しい始まりの日なのです。

次回は「恩恵」です。お楽しみに。